

全国高P連大会

(京都大会) に参加して

令和元年8月22、23日、京都市において第69回全国高等学校PTA連合会大会が開催されました。

初日は、京都府立工業高等学校吹奏楽 Mambou Jazz Band によるアトラクションから始まり、開会式に続き、分科会がありました。分科会は6つに分かれており、私は、第2分科会、「子どもたちを育む環境づくり ～地域社会の現状と次世代を見据えて～」に参加しました。



第2分科会は、全国大会初の試みとなるワールドカフェでの開催でした。ワールドカフェとは、会議での討論のやり方の一形式で、各参加者が対話を通じて「気づき」を得ることを目的としています。自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めます。硬い雰囲気にならず、リラックスして会議を進めることができます。具体的には、最初のAのグループで討議を行い、次にグループの一人がその場に残り、他の参加者はバラバラで他のB、C、D、E、F・・・のグループに移動します。Aに残った1人は、他のグループから来た方に概要を説明し、再度そのグループで討議を行います。そして、再度、散らばったグループのメンバーが元のAのグループに戻り、他のグループで討議した内容を持ち寄り、再度、討議を深めます。

一つのグループだけでは気づけないことに気づけたり、様々な意見や考えを聞くことができ、とても有意義な討議ができました。一方的に話（講演）を聞くのではなく、お互いの意見や考えの中から学びを深めることができる参加型・能動的な場であるため、時間が足りないと感じました。

全国各地から集まっているので、各地域の課題や状況も異なり、様々な意見が出されましたが、残していきたいこと、繋いでいきたいことは「コミュニケーション」でした。コミュニケーションの形が大きく変わっている中で、顔と顔を合わせ、語ることの大切さはいつになっても変わらず、そうすることでしか、理解しあえないところもある、と。同じ屋根の下にいても、ラインで連絡しあうこともある、との反省も出たり、この大会に参加し、様々な方

と知り合えることができたのは子供のおかげ、PTA 活動をしているおかげ、と、感謝の言葉も多く聞かれていました。また、この第2分科会のファシリテーターが素晴らしく（女性で、浴衣を着ていました）、終了時の感想の中で、全ての分科会をワールドカフェ形式にしてはどうか、という意見が出たほどでした。

2日目は、京都府立鳥羽高等学校、技講研究部による、和歌を節をつけて読み上げる、というアトラクションがあり、京都ならではの大会を感じることができました。

記念講演では、日本電産株式会社、代表取締役会長、永守重信氏による「学校教育・家庭教育に思うこと」をテーマに、時計を見る暇もないくらい惹きつけられる、素晴らしい講演を聞くことができました。スライドを使用せず、話だけでしたが、年齢を感じさせない、熱い講演でした。永守氏が、なぜ教育に携わることになったのか、子供のやる気を延ばすために親がどのように関わるべきなのか、ITが進む中での職業選択など、あっという間の90分でしたし、講演終了後の質問、感想が途切れませんでした。残念だったのは、参加者が多すぎて一つの会場に入りきらないため、各分科会でのモニターを通じての聴講でしたので、実際の永守氏を拝見することができなかったことです。

会長として2年目ですが、初めて全国大会に参加させていただき、貴重な体験をすることができました。京都では、たくさんのスタッフの方々に支えられ、大会が運営されていたことに感謝し、今後のPTA活動に還元していけたらと思っています。

大方高等学校PTA会長 米津 小巻

